

令和7年度 市浦地域住民懇談会① 案件・回答

開催日時：令和7年9月25日（木） 18時00分～19時15分

開催場所：市浦コミュニティセンター

参加住民：18名

出席議員：木村博副議長、和田祐治議員、秋田幸保議員、藤森真悦議員

懇談テーマ：

未来へつなぎたい・守りたい地域の強みについて ～2040年に向かって～

【今後の人口推移とまちづくりの理念について説明】（ふるさと未来戦略課長）

【意見等】

①テーマに関するもの

Q) 人口減少に対して、五所川原市では独自の対策をしているのか。

A) 副市長：市独自の対策というものは特にありません。「こうすれば良くなる」という（確実な）対策を立てるのは、正直なところ難しいものがあります。しかし、人口減少の中でも地域に住む方が笑顔で暮らせるようにするために、どのようなものを将来まで残していけばいいのか、自分たちに何ができるのかといったことをみんなで考えていくことが大切だと思っています。

意見) この地域の強みは、力を合わせて地域を盛り上げていこうという気持ちをみんなが持っているところだと思う。未来につなぎたいものとしては、虫送りや盆踊りなど、昔から何百年も続いている行事がある。

ただ、いつかは途絶えてしまうのではないかという心配がある。今は町内会でお金を出し合ったり個人から寄付があったりして、どうにか続けられる状態。青年団とも協力してできることはしているが、行政のほうでも少しでも金銭的な支援ができないか、検討をしてもらいたいと思っている。

少子化はどこでも進んでいるが、この地域は保育園も小中学生も少ない。10年後、20年後、学校はどうなるのか、自分たちの孫がこの地域にいて大丈夫だろうかといつも不安に思う。小泊、市浦の子どもたちは年間のバス代が20万円かかる。そのくらい親には負担が大きくなる。そういった点も見据えてもらえればと思っている。

意見) 世代が違くと価値観もまったく違うと思う。まちづくりとしては、説明の通り相互扶助でやっていかなければならないと思っている。現状の中でどうやってここで共生して助け合って生きていけるかという仕組みを作っていないといけない。自分の次の世代のバトンがなくなってしまうことが問題だと考えている。

Q) 人口を増やしていくような計画を考えたことはあるのか。

A) 副市長：人口増加を目指す計画はこれまで何度も作ってきました。ただ、現実にはなかなか上手くいかない状況です。

その中で、人口が減っていくという現実を受け止めた上でどれだけ減少を緩やかにできるかをみんなで考える機会を作っていきたいと考えています。

意見) この地域の強みは「自給率」だと思う。食べ物に関して困ることはない地域で、ロシアの「ダーチャ」という自給自足の仕組みによく似たライフスタイルである。それ自体が強みだと思う。

その強みを活かして、失業者の受け皿になることが可能なのではないかと考えている。例えば、自給自足というライフスタイルを1年のスパンで体験してもらって、それが合うなら地域のコミュニティの中に引き込むなど。もちろん合わないケースもあるが、きっかけがあるかないかでは結果は変わってくると思っている。そういった形で、これからの世代が何を求めているかも盛り込んで考えていくといいのではないかと考えている。

(市長)

・人口減少について

人口増加のための取組については、移住・定住や婚活など、様々なものを行ってきています。ただ、今の若い人たちは結婚や家族に関する価値観が変わっており、そういった点から、少子化は防ぎきれないものだと考えています。

この現実を受け止めながら、どうしたらこの地域を守っていけるかを考える必要があります。2040年を見据えると、例えば相内の人口は900人台になり、そのうち高齢者は500人台となります。その事実を見据えながら一つずつ手を打ち、現状を打開しなくてはならないと考えています。

・地域のまつり等について

伝統を守ることは、地域のよりどころにもなります。長く住んでいる皆さんが、みんなで地域の伝統・文化・祭りを守っていこうと活動し、そこに若い人たちも参加していき、それでも守り切れないなら地域の周りからも参加してもらうことが必要です。地域の方々だけでは守れないものは、地域の周りの人たちが応援して守っていく、という仕組みやつながりをつくっていくことが必要です。

・総合計画・まちづくりの理念について

まずは5年というスパンの中でしっかりと土台を作って、その先の10年間で将来に向けたまちづくりをしていきたいと思っていますので、ご理解をいただくとともに、一緒に土俵で参加してほしいと思っています。持っているものを一人ひとりが出すことで、人数以上の力が出せるかもしれない。そういったシナジー（相乗効果）のあるまちづくりをすることが、今回説明したまちづくりの理念です。

市浦は人と人とのつながりが深く、伝統・文化があり、なおかつ人が来て喜ぶ地域です。だからこそ、持続可能なまちが作れると思っています。今回のしじみフェスでは人口1,700人のこの地域に1,500人が参加しました。それほどの魅力がある地域ですので、今後も住民と行政で互いに協力しながら地域づくりをしていきたいと思っています。

意見）個人的に市浦の歴史を調べたりしているのだが、もののけ姫のアシタカヒコと、この地域の長髓彦（ながそねひこ）がリンクしている。おそらくモデルなのではないだろうか。そうすると、「もののけ姫とのコラボ」などといった形でシナジーを作ることにも可能なのではないか。そういったことでもひとつの商売が生まれる。

このような、「眠っている価値」というものが市浦地域にはあるのではないかと考えている。それを掘り出すことで経済活動へつなげていけるのではないか。市浦地域はとても歴史が深く価値がたくさんあると思うので、その価値を周知していてもいいと考えている。「ここに来る理由」があるだけで来てもらえるものだと思う。

②テーマ以外のもの

Q）市浦地域で火災が起きても防災無線は使用しないのか。

A）市浦総合支所長：市浦村時代は火災の際に消防署で防災無線を流していましたが、現在は火災の対応に消防署の職員全員が出てしまうので、防災無線は放送しないということになっています。

Q）今の状態でいいと考えているのか。

A）市浦総合支所長：そこは支所ではなく消防署での判断になるので、こちらでは何とも言えません。

Q）支所に熊や猿に関する相談は来ているのか。

A）市浦総合支所長：苦情はきていますが、その際は農林政策課を通して猟友会に連絡し、パトロールをしてもらっています。農家の方には要望があった方に随時、花火を提供しています。

Q) 道路の中央しか除雪が行われていない。端まできちんと雪を除去してほしい。

A) 市浦総合支所長：改善します。

Q) にこにこ温泉の運動施設について、ほかの市町村の人も利用できるようになれば、評判が広まって利用が増えると思う。実際に、ほかの市町村の人から利用させてほしいと希望があるそうなので、検討していただきたい。

A) 総務部長：運動器具については、健康づくりに積極的に活用してもらいたいということから、入館料以外の追加の料金を徴収せずに利用してもらっているところです。ただ、台数に限りがあるため、まずは市民の皆さんに最優先で使っていただくために、市民限定としたところがございます。いただいたご意見は、利用状況を踏まえて今後の参考にさせていただきますと思います。

Q) 利用者は1日10人くらいだそうです。ほかの市町村の人に利用を促しても十分使えるのではないかなと思ったので、提案しました。

A) 総務部長：貴重なご意見ありがとうございます。担当部署にも共有し、検討していきます。

Q) 現在ある観光誘導板が古くなって見えない。山王坊遺跡の誘導板がない。津軽三十三観音の十七番の案内板もだいぶ古くなっていて見えない。「〇〇（場所）ここから〇km」のような看板を立てることで、観光客を増やせればと思っている。

A) 副市長：貴重なご意見ありがとうございます。具体的にその場所を支所にお知らせいただければ、商工観光課、あるいは社会教育課とも協議しながら、こういった看板が有効か考えていきたいと思っています。

意見) (除雪について) 相談してもらえれば手伝いたいと思っているが、どこがどう困っているかの現状が分からないので、困りごとを支所などでまとめて管理する仕組みがあるといいと思っている。

要望) 農産物の鳥獣被害対策について、市浦ではサルの被害が酷く防ぎようがない状態。電気柵の設置や花火などによる追い払いといった対策も、サルが学習してしまっ、あまり効果が期待できない。もっと効果的な対策はないものか、県・国にも協力を求めたりして、検討をお願いしたい。

意見) この地域にすれば何かメリットがあるという光を与えてほしいと思っている。
商工会会長として、にこにこ温泉の完成をとてうれしく思っている。作っていただいただけでなくどう活用するか、商工会でも知恵を出して、健康増進のために何かイベントができればと思っており、近日プロレスを呼ぶ予定でいる。

寿大学や老人クラブの皆さんにも集ってもらって、小学校の子どもたちとのコミュニケーションも兼ねて健康についての事業を実施したいとも考えているので、市にも協力をお願いしたい。それにあたって、にこにこ温泉で抽選会（にこにこ温泉に入るとビンゴカードをもらえるなど）も考えている。